

# 調査レポート

## 自社の景況感、悪化の中にも今後に期待

——自社の景況、売上の今後DI値は改善へ

### 景況見通し調査

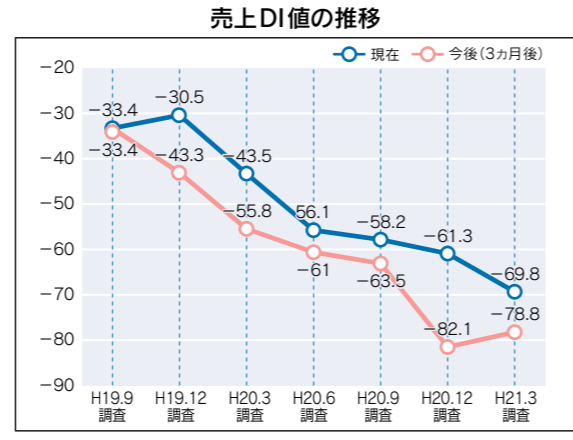
- 調査目的／管内小規模事業所の短期的な景況動向を把握するために年4回実施
- 調査時期／平成21年3月16日～23日
- 調査方法／FAXにより送付、回収
- 調査対象／福井商工会議所会員小規模事業所より1,870件を抽出（製造業・建設業：従業員20人以下の事業所卸・小売業、商業・サービス：その他：従業員5人以下の事業所）
- 調査回答企業／362社（回収率19・4％）

【内訳】製造業83 建設業110 卸・小売業92 サービス・その他77

文中にて用いる「DI値」とは…デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景況動向を示す指標。「良い」「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 調査結果概要

- ①現在の「自社の属する業界」の景況は、数値は横ばいだが、依然厳しい状態が続いている。
- ②現在の「自社」の景況、「売上」「採算」で悪化している。
- ③今後の「自社の属する業界」「自社」



### 半年前(平成20年9月)と現在を比較した売上減少比率

半年前(平成20年9月)と比較した自社の売上減少率を尋ねたところ、7割以上が減少と回答している。特に「1割減」が18・8%、「2割減」が16・9%、「3割減」が12・7%と多くなっている。また「4割減」、「5割減」、「6割以上減」と回答した企業も合わせて2割以上の回答があり、深刻な状況になっている。逆に「ほぼ横ばい」の企業が22・1%、「増加」している企業も5%ある。

業種別に見ると「卸・小売業」では8割以上が減少と回答しているが、逆に「その他・サービス業」では6

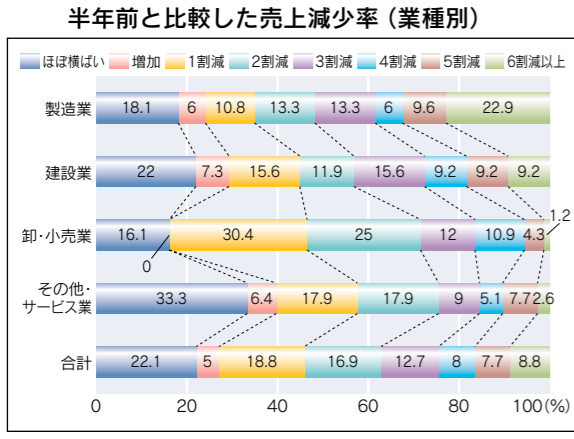
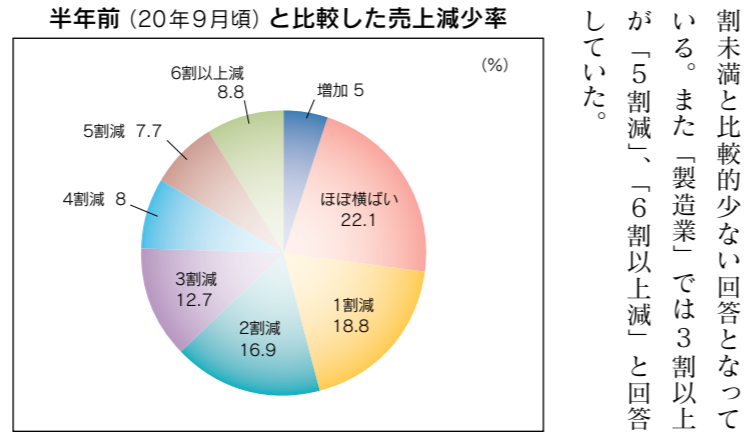
の景況「売上」「採算」は数値の改善が見られる。

- ④原油・原材料価格高騰は一段落したが、仕入価格の高止まりと採算悪化に懸念。
- ⑤半年前と比較した自社の売上減少率は7割以上が減少と回答。減少率は「1割減」「2割減」が多くなっているが、逆に「ほぼ横ばい」も2割以上回答、「増加」との回答も5%あった。

### 自社の景況

DI値は「現在」では前回調査(平成20年12月)よりも下落している。理由としては昨今の原油・原材料価格の高騰の影響は若干落ち着いた感じであるものの、売上・受注減や単価安が大きく悪影響を及ぼしていることが挙げられている。また全ての業種で下落している。

「今後3ヵ月の予想」は依然として厳しい状況が続くものの、数値の改善が若干見られる。全ての業種で数値の改善が見られ、平成19年9月以来の改善となった。



### 売上(受注高)

売上(受注高)についても、DI値は「現在」では前回を下回っている。業種別にみると、「サービス業・その他」で数値の改善がみられるものの、「製造業」、「建設業」、「卸・小売業」で下回っている。

「3ヵ月後の予想」では全業種で数値の改善が見られており、厳しい中でも先行きの期待がうかがえる。この数値も平成19年9月以来の改善となっている。

